学校法人 兵庫医科大学

広報

兵庫医科大学　兵庫医療大学

vol.227
2014年8月号

就任挨拶、名誉教授・教授懇談会
ワシントン大学医学部との学術交流協定締結
緑樹会総会、平成26年度学術講演会
「薬剤師への道2014」、「看護職への道」
ソロプチミストルビー賞受賞、地震・津波防災訓練
地域医療懇談会、サマーコンサート

vol.227. ～2014年8月25日発行～

CONTENTS

02 最近の主な出来事

■兵庫医科大学
03 輸血・細胞治療学 主任教授 就任挨拶
内科学リウマチ・膠原病科 教授就任
兵庫医科大学 名誉教授・教授懇談会
04 ワシントン大学医学部との学術交流に関する協定締結
George Meyer特別招聘教授による英語での臨床医学カリキュラムを実施
05 第37回兵庫医大緑樹会総会報告
学位授与
06 平成26年度学術講演会「地震と防災」を開催
平成26年度公的資金一覧
07 平成26年度大学院生研究助成受給者一覧
平成26年度教員研究費助成配分者
08 研究REPORT
内科学リウマチ・膠原病科 佐野 統 主任教授

■兵庫医療大学
09 『薬剤師への道2014』開催
10 『看護職への道』イベントを初めて開催
11 「ソロプチミストルビー賞」受賞
看護学部 鈴井 江三子教授
地震・津波防災訓練を実施
12 平成26年度リーダーズキャンプを実施
平成26年度入学生・在学生特別奨学生証授与式
13 研究REPORT
リハビリテーション学部 理学療法学科 玉木 彰教授

■兵庫医科大学病院
14 周産期センター長 就任挨拶
第14回地域医療懇談会を開催
脳卒中ケアユニットを設置
15 サマーコンサート開催
看護学生向け 病院就職説明会を開催
16 永年勤続病院職員表彰
私立医科大学病院 感染対策協議会を開催
フロンティア医療セミナー

■ささやま医療センター
ささやま老人保健施設
17 篠山キャンパス将来構想懇談会「発表会」を開催
中医薬孔子学院篠山キャンパス健康講座を開催

■学校法人兵庫医科大学
18 事務局組織の再編について
19 第2回 事務局管理職会議（SD講習会）を開催
平成26年度兵庫県危険物取扱優良事業所 表彰
1号館屋上看板リニューアル
20 学校法人兵庫医科大学基金兵医・萌えの会 状況報告
募金箱の設置について
21 兵庫医科大学開学40周年記念事業募金状況報告
「上野の森美術館」の美術展 入選
22 業務改善推進制度を開始
理事・評議員の異動
23 規程等の制定・改正・廃止
24 報道機関への出演・掲載
25 9～10月の行事予定

最近の主な出来事

6月 June

7	■兵庫医科大学病院	地域医療懇談会	→P14
8	■兵庫医療大学	兵庫医療大学×兵庫医科大学病院 合同イベント『薬剤師への道』	→P9
	■兵庫医科大学病院		
10	■兵庫医療大学	公開セミナー「知って得する薬剤師活用術」（グランフロント大阪）	
11	■兵庫医科大学病院	市民健康講座「乳がんの早期発見と予防」	
	■兵庫医科大学	学術講演会「地震と防災」	→P6
12	■兵庫医科大学病院	第22回 フロンティア医療セミナー	
13	■兵庫医療大学	公開セミナー「ボーボキ、元気って、なに色？～平和と健康について考える～」（グランフロント大阪）	
	■ささやま医療センター	学校法人兵庫医科大学中医薬孔子学院 中医薬体験会	→P17
14･15	■兵庫医療大学	リーダーズキャンプ	→P12
16	■兵庫医科大学	汕頭大学医学院留学成果報告会	
22	■兵庫医療大学	看護学部イベント『看護職への道』	→P10
25	■兵庫医科大学病院	市民健康講座「下肢閉塞性動脈硬化症について　～歩くと足がしびれたり、痛くなる事はありませんか？～」	
	■ささやま医療センター	篠山キャンパス将来構想懇談会「発表会」	→P17
26	■兵庫医療大学	高校教員対象入試説明会	→P2
27	■学校法人兵庫医科大学	認定看護師教育課程 入学試験	
	■学校法人兵庫医科大学	事務局管理職会議	→P19

7月 July

2	■ささやま老人保健施設	七夕会	→P2
3	■兵庫医療大学	利益相反セミナー	
	■兵庫医療大学	中医薬孔子学院 市民健康講座	
3･10 17･24	■兵庫医療大学	公開セミナー「女子力アップ講座」（グランフロント大阪）	
4	■兵庫医科大学	兵庫医科大学名誉教授・教授懇談会	→P3
5	■兵庫医科大学	1年生 心肺蘇生法実習	
6	■兵庫医科大学	第37回緑樹会総会	→P5
7～11	■兵庫医科大学	1年生 早期臨床体験実習	
12･13	■兵庫医科大学	医学教育ミニワークショップ	
10	■学校法人兵庫医科大学	認定看護師教育課程 合格発表	
	■兵庫医科大学病院	第23回フロンティア医療セミナー	
11	■兵庫医療大学	七夕講演会	
16	■兵庫医療大学	仕事研究セミナー「私の仕事～がん看護ＣＮＳの役割と活動～」	→P2
	■兵庫医科大学病院	市民健康講座「子どもの虐待の発見と対応ー病院で支える家族の絆ー」	
19	■兵庫医科大学病院	病院就職説明会（看護学生向け）	→P15
	■兵庫医科大学病院	サマーコンサート	→P15
25	■兵庫医科大学	4年生 トリアージ訓練	
	■兵庫医療大学	地震・津波防災訓練	→P11
26	■兵庫医科大学病院	私立医科大学病院 感染対策協議会	→P16
29	■兵庫医科大学病院	ハラスメント防止等に関する講演会	
	■兵庫医科大学	サテライトオープンキャンパス（福岡）	
30	■兵庫医科大学病院	市民健康講座「ストーマのお話」	

6/26 ■兵庫医療大学
高等学校等教員対象 平成２７年度入試説明会

Ｍ１１３講義室において、高等学校等教員を対象とした平成２７年度入試説明会を開催しました。当日は高等学校の進路指導教員３０名と、予備校の担当者７名に出席いただき、昨年度入試の総括、今年度入試の概要、各学部の紹介や取り組みについて説明を行いました。説明会後には、個別相談コーナーを設け、入試や学部の取り組みに関する様々な疑問点を解消し、兵庫医療大学を深く知っていただく機会となりました。

7/16 ■兵庫医療大学
仕事研究セミナー「私の仕事～がん看護ＣＮＳの役割と活動～」を開催

キャリアデザインセンターにおいて、全学部全学年の学生を対象とした「仕事研究セミナー」を開催しました。

「私の仕事～がん看護ＣＮＳの役割と活動～」というテーマで、神戸市立医療センター中央市民病院 がん看護専門看護師の梅田節子氏を講師にお招きし、専門看護師の役割、目指された経緯、仕事のやりがいなどをお話しいただきました。

学生からは、「どのような過程を経てＣＮＳになったのかというお話は、自分のこれからの道を考えるにあたってとても参考になりました」という感想が聞かれ、将来の選択肢が広がったのではないでしょうか。

7/2 ■ささやま老人保健施設
七夕会

ささやま老人保健施設において七夕会が開催され、篠山市のボランティアのご夫婦に南京玉すだれの芸をご披露していただきました。「すだれ」から「柳」に変わる瞬間、利用者の皆さんの表情が変わり、大きな拍手で喜んでおられました。皿回しや川柳などもご披露いただき、回っている皿を任せられた利用者さんは、車いすに座りながら真剣にバランスを取っておられました。この日は暑い日でしたが、ご夫婦は華やかな衣装を着て、利用者の皆さんが笑顔になっていただけるならと、汗を流しながらもたくさんの芸を披露いただきました。

TOPICS

第1回 兵庫医科大学フォーラム開催

第１回 兵庫医科大学フォーラムを平成２６年８月３日（日）に開催しました。

ホームカミングデイとオープンキャンパスの同時開催となった今回のフォーラムには、総勢５００名を超える皆様にご参加いただきました。当日は台風１２号が迫り、小雨の降る中にもかかわらず、多数のご参加をいただき誠にありがとうございました。

（詳細は次号２２８号にてお伝えします）

ホームカミングデイ Welcome Partyの様子

主任教授就任挨拶〈8月１日就任〉

輸血・細胞治療学
藤盛 好啓

この度、輸血・細胞治療学講座の主任教授に就任させていただきました。昭和５４年に本学を卒業し地域医療に従事した後、昭和５８年より本学旧第二内科を経て血液学・輸血学の臨床・研究を行って参りました。本年４月、学内に細胞治療を行うために必須の細胞プロセシングセンター（Cell processing center: CPC）が新設され、これをうけて輸血学講座が輸血・細胞治療学講座となり、細胞治療を本格的に推進していくことになりました。

細胞治療のルーツは輸血であり、造血幹細胞移植で大きく発展してきましたが、現在では癌免疫療法から幹細胞による再生医療まで、多岐にわたる治療戦略のベースとなり、今後更なる発展が期待されます。私どもは臨床各科と連携して新しい治療を促進させ、兵庫医科大学での先進医療に貢献できることを切望しております。また、研究・教育にも積極的に取り組んで参りますので、今後ともご支援賜りますようお願い申しあげます。

教授就任〈8月１日就任〉

内科学
（リウマチ・膠原病科）
松井 聖

略歴

昭和58年	3月	兵庫医科大学 医学部 卒業
	6月	兵庫医科大学病院 第三内科 臨床研修医
昭和59年	6月	兵庫医科大学病院 放射線科 臨床研修医
昭和60年	4月	兵庫医科大学 大学院医学研究科内科系 入学
平成元年	4月	兵庫医科大学 内科学第3講座研究生 入学
平成2年	1月	米国スタンフォード大学医学部 免疫・微生物学教室 客員研究員
		ハワードヒューズ医学研究所 客員研究員
平成5年	7月	兵庫医科大学病院 第三内科 医員
平成8年	10月	兵庫医科大学 内科学第3講座 助手
平成12年	4月	兵庫医科大学 内科学第3講座 学内講師
平成13年	4月	兵庫医科大学 総合内科学講座 学内講師
平成14年	4月	兵庫医科大学 総合内科学講座（リウマチ・膠原病科）学内講師
	12月	兵庫医科大学 総合内科学講座（リウマチ・膠原病科）講師
平成16年	12月	兵庫医科大学 内科学講座（リウマチ・膠原病科）講師
平成20年	4月	兵庫医科大学 内科学講座（リウマチ・膠原病科）准教授

兵庫医科大学 名誉教授・教授懇談会

平成２６年７月４日、ヒルトン大阪において兵庫医科大学 名誉教授・教授懇談会が開催されました。平成１９年より開催されている本会も８回目となり、今年は名誉教授から２０名、法人役職者６名、現役教授２４名の合計５０名が出席されました。

参加者全員による記念撮影の後、昨年の開催日より１年間でご逝去されました名誉教授２名の冥福を祈り、黙祷が捧げられました。続いて、理事長、学長から現在までの大学へのご支援への御礼と「今後ともご支援ご協力をお願いします」との挨拶がありました。参加者からは大学への期待や近況報告、社会への奉仕やこれからの活動など多岐にわたる話題を披露していただき、終始和やかな会となりました。最後に鈴木副学長の閉会の挨拶で締めくくり、盛会のうちに終了となりました。

ワシントン大学医学部との学術交流に関する協定を締結

平成２６年４月２５日、兵庫医科大学とアメリカ合衆国ワシントン大学医学部との間で、学術交流に関する協定が締結されました。ワシントン大学医学部は、研究・臨床の両分野で世界的に有名であり、ノーベル賞受賞者も輩出している名門校です。

この協定は、両大学の学術的な連携の拡大や、学術協力を促進し、相互理解を深める目的で締結されたもので、主に下記の内容における両校間での協力について合意されました。

５月１２日～６月５日には第５学年次の学生がワシントン大学での実習を行っており、今後両大学の交流による教育・研究の促進およびますますの国際化が期待されます。

■ 協定の主な内容

・両大学間の学生の相互派遣による学術交流
・共同研究の実施
・教員及び研究者の交流
・その他両大学間の合意に基づく活動

George Meyer特別招聘教授による英語での臨床医学カリキュラム

カリフォルニア大学デービス校内科教授の要職にあり、米国消化器病学会最高栄誉会員（MACG）の称号を持つDr. George Meyerを特別招聘教授として迎え、平成２６年５月１２日～６月５日の約１ヶ月間、英語での臨床医学カリキュラムを実施しました。外国人指導医による研修医教育や、短期間の招聘（数回の講義）などは他の大学医学部や医科大学、臨床教育病院でも取り組みがありましたが、１ヶ月間教授として滞在し授業を全て行うのは類を見ない取り組みでもあり、本学ではこれから更に求められる英語力や国際化に向けた取り組みが進められています。

４年生のカリキュラムとして新たに開講した「英語で学ぶ診断学と総合診療」では、授業の全てが英語で行われました。学生の発表にMeyer教授が質問をするなど双方向の授業が展開され、時折英語の表現に悩みながらも、楽しげに授業を受ける学生の姿が見られました。

英語サークルの学生とは、お昼休みを利用し、実際の臨床現場で役立つ英語力向上に向け、診察練習なども実施しました。また、兵庫医科大学病院の総合内科においても臨床実習のケースカンファレンスを英語で指導していただくなど、Meyer教授には幅広く英語教育を実施いただきました。

4年生の授業の様子

英語サークルの活動

総合内科でのケースカンファレンス

第３７回兵庫医大緑樹会総会報告

定期総会

例年総会は土曜日開催でしたが、今年の定期総会は第５代石蔵礼一会長（昭和５７年卒・放射線科）の召集で、平成２６年７月６日午後３時より平成記念会館にて開催されました。有権会員数３，７１８名のところ、出席会員５２名、委任状７３９名で総会は成立。議長には伊福先生が選任され、議案の審議が進められ、積極的な討論がなされました。

教授就任記念講演

総会に引き続き、新教授に就任された奥野壽臣教授（昭和５３年卒・病原微生物学）、成瀬均教授（昭和５６年卒・医学教育学）および三和千徳教授（平成４年卒・神戸学院大学人文学部）による記念講演が開催されました。奥野教授には「新旧ヒトヘルペスウイルスの研究」について、成瀬教授には「座学から能動的学習へ」について、三和教授には「医療現場における短期精神療法の役割」について熱い講演をいただきました。講演後、３名の先生方には花束とお祝いが贈られました。

また、主任教授に就任された免疫学・医動物学 善本知広教授と炎症性腸疾患学（外科） 池内浩基教授が紹介され、花束が贈呈されました。

大学および病院見学会・懇親会

教授就任記念講演後、懇親会場（１０号館１０階レストランリビエール）への移動中、大学および病院見学会を３班に分け開催しました。かつて緑樹会員が若かりし日に学んだ３-３講義室や急性医療総合センターなどを巡りました。急性医療総合センター内では、救命救急センターで山田太平助教（平成１６年卒）、ＩＶＲセンターで山本聡学内講師（平成１０年卒）、手術センターで泌尿器科 橋本貴彦助教（平成１５年卒）および脳神経外科で内田和孝助教（平成１２年卒）、ＮＩＣＵで皆川京子助教（平成元年卒）の各先生方から説明を受けました。

このようにして、兵庫医科大学の昔と今を堪能していただいたあと、リビエールでの会員懇親会が催されました。懇親会には新家理事長・太城副理事長・中西学長・難波病院長らもご参加いただき、歓談は美酒とともに盛り上がりました。

兵庫医科大学緑樹会
総務会計担当理事　山村 光弘
（昭和６３年卒・心臓血管外科）
会長　石藏 礼一
（昭和５７年卒・放射線医学教室）

学位授与

学位記（甲）

報告番号	氏　名	専攻系	博士論文名	授与年月日
甲第663号	河野（こうの） 友彰（ともあき）	医科学専攻 器官・代謝制御系 消化管疾患学	Prospective postsurgical capsule endoscopy in patients with Crohn's disease （カプセル内視鏡による術後クローン病の小腸残存病変の評価および早期再発の評価）	H26.7.3

学位記（乙）

報告番号	氏　名	博士論文名	授与年月日
乙第366号	日髙（ひだか） 沙弥香（さやか）	Effect of a nitric oxide synthase inhibitor and a CXC chemokine receptor-4 antagonist on tumor growth and metastasis in a xenotransplanted mouse model of adenoid cystic carcinoma of the oral floor （口底腺様嚢胞癌移植マウスモデルにおけるNOS阻害剤およびCXCR4拮抗剤の腫瘍増殖および転移抑制効果）	H26.7.3

平成２６年度学術講演会「地震と防災」を開催

本学は災害拠点病院として指定され、西宮市の津波避難ビルにも指定されています。阪神・淡路大震災の際にも被災した経験から、今後発生すると予想されている南海トラフ大地震などの災害への備えや意識を怠らないよう、危機管理にかかる特別講義を毎年開催しています。

今年度は６月１１日に平成記念会館にて「地震と防災」をテーマに学術講演会を開催しました。当日は１年生～４年生の学生、教職員他、一般の方々にもお越しいただき、神戸女子大学客員研究員の波田 重熙先生をお招きして、地震のメカニズムや、地震への備えなどについてご講演いただきました。

平成２６年度公的資金一覧

（単位：円）

区　分	研究課題（プロジェクト）名	所属部署	職　名	研究代表者等	事業費	交付（配分）予定額	備　考
私立大学戦略的研究基盤形成支援事業	アレルギー性炎症:原因の解明と治療技術の開発	先端医学研究所 アレルギー疾患研究部門	主任教授	善本 知広	30,000,000	15,000,000	平成22年度～26年度 文部科学省
	病原体とガンのアジュバントの研究拠点		学　長	中西 憲司	37,000,000	18,500,000	平成24年度～27年度 文部科学省
	がん微小環境を標的とする消化器がん治療法の開発	外科学 上部消化管外科	主任教授	笹子 三津留	42,000,000	21,000,000	平成24年度～27年度 文部科学省
	中皮細胞の統合的研究拠点形成	内科学 呼吸器・RCU科	主任教授	中野 孝司	40,000,000	20,000,000	平成24年度～28年度 文部科学省
	HLA半合致移植と骨髄内骨髄移植を柱とする包括的細胞療法の確立を目指した研究	内科学 血液内科	主任教授	小川 啓恭	11,000,000	5,500,000	平成25年度～29年度 文部科学省
	難治性疼痛・感覚異常に対する創薬基礎研究	解剖学 神経科学部門	主任教授	野口 光一	30,000,000	15,000,000	平成26年度～30年度 文部科学省
	外科手術後癒着形成：分子機構の解明と診断・治療技術の開発	外科学 肝胆膵外科	主任教授	藤元 治朗	60,000,000	30,000,000	平成26年度～30年度 文部科学省
大学改革推進等補助金「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」	7大学連携先端的がん教育基盤創造プラン		学　長	中西 憲司	8,105,000	8,105,000	平成24年度～28年度 文部科学省
次世代がん研究シーズ戦略的育成プログラム	分子プロファイリングによる新規標的同定を通じた難治がん治療法開発(悪性中皮腫のプロファイリングによる新規分子標的の同定)	内科学 呼吸器・RCU科	主任教授	中野 孝司	10,500,000	10,500,000	平成23年度～27年度 文部科学省
戦略的国際科学技術協力推進事業	アナリシス・バイ・シンセシスによるニューロンネットワークモデルの推定と自発性同期現象を生成する神経回路メカニズムの解明	生理学 生体機能部門	主任教授	越久 仁敬	4,112,000	4,112,000	平成24年度～26年度 独立行政法人科学技術振興機構
戦略的情報通信研究開発推進制度（ＳＣＯＰＥ）	医療サービスの継続性を担保する電子カルテ秘密分散バックアップ技術	医療情報学	講　師	平松 治彦	39,000	39,000	平成24年度～26年度 総務省
環境研究総合推進費	大気環境の異なる地域におけるPM2.5及びオゾンの呼吸器系への影響に関する疫学研究	公衆衛生学	主任教授	島 正之	14,625,000	14,625,000	平成26年度～28年度 環境省
計					287,381,000	162,381,000	

平成２６年度大学院生研究助成受給者一覧

〔単位：円〕

番号	専　攻	学年	氏　名	研　究　課　題	配分額
1	医科学専攻 生体応答制御系 分子遺伝医学	3	木村 美智（きむら みさと）	骨肉腫に対する腫瘍融解アデノウイルスの抗腫瘍効果の検討	800,000
2	医科学専攻 器官・代謝制御系 循環器病学	4	三木 孝次郎（みき こうじろう）	血管内画像診断装置を用いた浅大腿動脈病変における従来型ステントと薬剤溶出性ステント留置後のステント被覆化の比較検討	750,000
3	医科学専攻 高次神経制御系 耳鼻咽喉科学 頭頸部外科学	4	巽 恵美子（たつみ えみこ）	脊椎microgliaに対するRhoキナーゼ（ROCK）阻害剤の影響と神経障害性疼痛への関与	700,000
4	医科学専攻 生体再生制御系 形成外科学	4	曽束 洋平（そつか ようへい）	レーザー光による骨切りと骨癒合の研究	650,000
5	医科学専攻 生体応答制御系 病院病理学	3	川上 りか（かわかみ）	第２世代薬剤溶出性ステント留置後冠動脈における病理組織像の解析	600,000
6	医科学専攻 生体再生制御系 形成外科学	3	藤田 和敏（ふじた かずとし）	皮膚創傷治癒過程における酸化ストレスの影響；TRPCチャネルとの関係について	500,000
合計					4,000,000

（注）番号は評価成績の順

平成26年度教員研究費助成配分者

氏　名	所属講座等	年齢	職　名	研究課題	所属長
江嵜 啓祥	化学	36	講師	新規パラジウム触媒Pd@iO-brane™を利用した鈴木―宮浦反応の開発	野坂 和人
大谷 佐知	解剖学（細胞生物部門）	37	学内講師	下垂体におけるサイトカインの発現とその役割	関 真
大久保 正道	解剖学（神経科学部門）	35	助教	末梢神経損傷による脊髄マイクログリアの活性化機構と神経障害性疼痛の誘発	野口 光一
土屋 綾子	生理学（生体情報部門）	39	講師	DCP-LA型リン脂質の抗糖尿病効果の検討	西崎 知之
北中 純一	薬理学	48	准教授	麻薬による情動・行動変化の分子機構と自閉症モデルの可能性	竹村 基彦
下村 智子	環境予防医学	32	助教	肥満・糖尿病モデルラットの血管および血管壁構成細胞における血管作動性物質の産生機構の変化	若林 一郎
久保 秀司	遺伝学	50	准教授	悪性中皮腫に対する抗血管新生遺伝子治療法の開発	玉置 知子
山田 直子	病理学（機能病理部門）	44	講師	低酸素によるMICAタンパク質の糖鎖修飾変化	中正 恵二
佐藤 鮎子	病理学（分子病理部門）	37	講師	胸水検体を用いた悪性胸膜中皮腫の分子生物学的診断法の開発	辻村 亨
松田 育雄	病理学（病院病理部門）・病院病理部	49	講師	サロゲート抗体による免疫染色を用いた新しい病理診断法の開発	廣田 誠一
池亀 和博	内科学（血液内科）	44	講師	同種造血細胞移植を支える多職種共同の臨床研究推進とこれを基にした発展的移植法の開発	小川 啓恭
岡崎 博一	内科学（糖尿病・内分泌・代謝科）	35	助教	血管石灰化におけるAMP-activated protein kinase(AMPK)の役割	難波 光義
飯島 尋子	内科学（肝・胆・膵科）	56	臨床教授	超音波による低流速検出機能および自動トラッキング法を用いた肝腫瘍および肝機能診断	西口 修平
大島 忠之	内科学（消化管科）	45	講師	非びらん性胃食堂逆流症(NERD)の病態と症状発現のメカニズムに関する検討	三輪 洋人
蓮池 由起子	内科学（腎・透析科）	48	講師Ａ	慢性腎臓病患者に対する貧血治療によるフラタキシン発現および酸化ストレスへの影響	中西 健
橋本 昌樹	外科学（呼吸器外科）	32	助教	悪性胸膜中皮腫におけるmTOR,MEK阻害効果の検討	長谷川 誠紀
鍔本 浩志	産科婦人科学	48	講師	子宮体癌術後再発予後因子に関わる上皮間葉移行(EMT)関連分子の解析	柴原 浩章
西本 聡	形成外科学	49	臨床教授	放射線照射により傷害された創傷治癒機転の骨髄及び、末梢血由来多血小板血漿による改善	垣淵 正男
植木 隆介	麻酔科学・疼痛制御科学	42	講師Ａ	熱傷マウスの骨格筋活性酸素種産生に対する生体顕微鏡を用いた各種治療薬の検討	廣瀬 宗孝
本田 公亮	歯科口腔外科学	56	臨床教授	中学生の部活動における管楽器演奏が顎関節症状の発現に与える影響について	岸本 裕充
高川 哲也	炎症性腸疾患学（内科部門）	40	特任助教	炎症性腸疾患の疾患感受性遺伝子LRRK2が制御する細胞内シグナル伝達経路の解明	中村 志郎
長屋 寿雄	先端研（細胞・遺伝子治療部門）	41	助教	ナフトビジルの代謝物に着目した膀胱癌治療薬の開発	後藤 章暢

【配分額】　１件当たり８９４，０００円（２年間で使用する）

研究 REPORT リポート

こんな人 メモ

明治２１年に神戸で最初に私立病院を創設した佐野家のひ孫で、解剖学者の長男として昭和２７年９月京都市で生まれる。名前の統（はじめ）には決まり、基本などの他に、治める、束ねるなどトップに立つ意味もあり、期待の表れだろう。親族には多くの医者、研究者がいた。父も、伯父も、叔父も、祖父も、曽祖父も…気がつけば医師を目指していた。京都府立鴨沂高校から１年浪人して入学した京都府立医科大学は、父と長男の三世代が同窓となる。

趣味は多彩で、軟式テニス、囲碁、海外旅行など。その中でフィギュアスケート観戦は、伊藤みどりの３回転ジャンプを見て虜になった。家族で浅田真央を応援している。同じファンの中西憲司学長と大阪の全日本選手権会場で遭遇したり、昨年博多で行われたグランプリファイナルでは観戦する姿をテレビで発見されたことも。

かつては野球少年。チャンスに強い長嶋茂雄が好き。小学生の頃、往年のスター歌手沢田研二と草野球をしたことも自慢の一つ。子供の頃のニックネームは“おはなはん”「鼻が高いので…」と言ってはにかんだ。座右の銘はルイ・パスツールの「偶然は、準備のできていない人を助けない」

現在は、日本リウマチ学会、日本臨床免疫学会、日本炎症・再生医学会、日本脊椎関節炎学会などの理事を務めている。

リウマチ患者さんの苦しみを取り除きたい
－臨床と研究 両面からのアプローチ－

内科学
リウマチ・膠原病科
主任教授　佐野 統（はじめ）

リウマチ学研究との出会い

京都大学医学部附属病院で研修中、初めて受け持った３０歳代の女性が膠原病を患っていた。

「全身性エリテマトーデスの治療中、歯を抜いたところ、菌が血液中に入り、細菌性心内膜炎による大動脈弁閉鎖不全症をきたした。女性には小さな子供さんもいた。助けたいと心から思った」

治療の役に立てるために免疫学研究室に頻繁に出入りするようになり、その縁で多くの恩師や先輩に出会い、生涯リウマチ学研究に取り組むことになった。

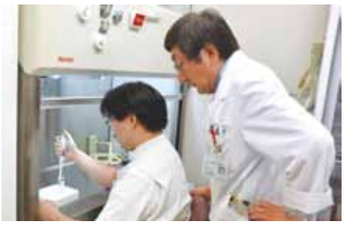
米国国立衛生研究所（ＮＩＨ）への留学や京都府立医科大学での勤務を経て、平成１４年９月に兵庫医科大学リウマチ・膠原病科初代教授に就任した。

「新設する講座の教授の公募を知り、新しい環境でチャレンジしてみたいと思い応募した。最新の研究機器・施設があり、研究費も豊富、若い人を育てられる。何でもできる素晴らしい環境があり驚いた。創設当初からの本学の伝統でもあり、現在も全国トップクラスだろう」

佐野主任教授は、診療・研究に邁進し、「平成２５年日本リウマチ学会賞」を受賞するなど、リウマチ学研究のトップランナーである。

臨床での取り組み

佐野主任教授の研究のメインテーマである関節リウマチ（ＲＡ）は、免疫の仕組みに異常が起き、全身の関節に炎症が生じる病気だ。病状が進むと関節が破壊され変形し、歩行など動作が困難になる。さらに進行すると腎臓や肺などにも合併症が出現したり、寝たきりになるケースもある。患者数は全国で７０万人以上とされる。原因は遺伝的要素やウイルス感染、ホルモンの影響、環境因子などが考えられるが特定されていない。



関節リウマチの治療は、①薬物療法②手術③リハビリ④患者教育が４本柱だ。最近は「抗リウマチ薬」の開発で、手術は年々減少している。

「生物学的製剤には抜群の効果があり、寛解にもっていける。だが、免疫を抑えるため肺炎や結核などの感染症にかかるケースもある。私たちは徹底的な事前チェックで副作用を大幅に抑えることに成功し、生物学的製剤による治療と実績では全国トップクラスです」

また、関節リハビリにも力を入れたいと考えており、整形外科とリウマチ・膠原病内科が共同で診察・治療できるリウマチセンターの設立を目指す。現在、両科の担当医が月１回合同ミーティングを行い、勉強と情報交換を深めている。治療技術の向上とともに患者教育も重要な柱となる。今後の課題はリウマチ専門医の育成と関節のリハビリテーションの充実、そしてリウマチ専門看護師の養成だという。

診療と研究のレベルアップに向けて

佐野主任教授は、関西圏の大学医学部・病院の若手研究者を集めて研究発表会・交流会を実施したり、海外留学経験を話して留学を後押しするなど、若手医学者の育成にも力を入れている。平成２５年からは、日本リウマチ学会近畿支部代表理事にも就任し、近畿の拠点病院として関西一円の病院と協力して臨床データを集積し、リウマチ診療と研究のレベルアップを図り、日本のみならず世界に発信したいと意欲的だ。

また、研究でも新しいテーマに取り組んでいる。

「自然治癒するリウマチ患者が１割いる。脳に治癒に関与するコントロールシステムがあるはずだ。それを正常機能に保てれば、リウマチも治癒するのではないか。今はまだ未知の分野だが挑戦したい」

論文発表に向け情熱を燃やしている。

『薬剤師への道２０１４』を開催しました

平成２６年６月８日、兵庫医療大学 薬学部と兵庫医科大学病院 薬剤部との合同イベント「薬剤師への道」を開催しました。このイベントは、薬学部を目指す高校生を対象に、より一層薬学に興味を持ってもらうために毎年開催しているもので、５回目となる今回は、「薬剤師とは具体的にどんな仕事なのか」、「薬剤師として社会に出るまでにはどのような学びを経るのか」をテーマに開催し、多くの応募者の中から選ばれた４８名の高校生に参加いただきました。

午前中は、西宮市にある兵庫医科大学病院において、現役薬剤師の話や薬剤部見学を通して薬剤師の仕事を知ってもらい、午後からは、神戸市にある兵庫医療大学に移動して、薬学部での学びを体験できるプログラムを実施しました。

■兵庫医科大学病院

薬剤師の仕事について知ろう！

兵庫医科大学病院薬剤部に勤務する兵庫医療大学卒業生から、新人薬剤師の１日の流れやどのようなことに注意して働いているかなど、薬剤師の仕事について分かりやすく説明しました。

大学病院　薬剤部の職場見学！

現役薬剤師が兵庫医科大学病院薬剤部を案内し、調剤方法や投薬する際の注意点など、日常における薬剤師業務について説明を行いました。高校生は普段見ることができない薬剤部を見学し、薬剤師がどのような仕事を行っているか、より具体的に知ることができたのではないでしょうか。

■兵庫医療大学

大学での学びを体感しよう！

体験講義

青木薬学部教授から、勉学方法や各研究室での研究内容について紹介した後、天野薬学部教授から、薬局薬剤師の仕事内容や卒業後の進路について講義が行われました。

体験実習

臨床薬学研修センターで、「生薬当てクイズ」「分包体験」「軟膏作り体験」の体験実習を順番に行いました。大学の中にある薬局を模した実習室で、教員や在学生スタッフに指導してもらいながら様々な体験をし、一足先に薬剤師気分を体感できたのではないでしょうか。

ランチタイム

２台のバスに分かれて、兵庫医科大学から兵庫医療大学まで移動。その後、レストランにおいて、在学生や薬学部教員と一緒に、学生生活のことなどを聞きながら楽しくランチを取りました。

≪参加した高校生からの感想≫

実際に薬剤師として働いている方の現場を見ることができ、また大学でも体験実習ができて、今後の進路を考える上で貴重な体験ができたと思います。

今日のイベントは本当に薬剤師になりたいと思っている自分にとって、とてもためになりました。イベントに参加してよかったです。

他多くの感想があり、大盛況のうちに幕を閉じました。

『看護職への道』イベントを初めて開催

平成２６年６月２２日、看護職を志望する高校生（受験生）を対象としたイベント「看護職への道」を初めて開催しました。

看護職への人気は年々高まる一方ですが、本学で取得可能な“看護師”“保健師”“助産師”がそれぞれ実際にどのような仕事をしているのかキャリアの視点から看護職を知ってもらい、看護の世界を体感していただきました。

当日は、あいにくの雨にもかかわらず、事前に申込されていた１３５人の高校生（受験生）と多くの保護者にもご参加いただき、終日看護職を志す参加者の熱気に包まれていました。

《プログラム》

大学・学部の学びを知る

■ 大学紹介

大学の概要説明として、チーム医療教育や医療総合大学、兵庫医科大学と兄弟校であるとともに兵庫医科大学病院が法人内にあることなどのメリットを簡単に紹介しました。

■ 在学生による学部紹介

看護学部３年次生の男女１名ずつに登壇いただき、学生目線から看護学部の紹介をしていただきました。

■ 国際看護への取り組み紹介

今年３月に欧州研修に参加した３年次生の在学生からは、外国における看護のあり方や考え方について紹介するとともに、「日本と異なっている部分については、違った視点から看護を学ぶことができたのは非常に大きな収穫でした」という感想が述べられました。

講義体験「専門職としてのキャリア形成と国際看護」

本学で【国際看護】【助産学】に関する講義を担当している看護学部鈴井江三子教授より、「専門職としてのキャリア形成と国際看護」について講義を行いました。

鈴井教授は、母子健康に関する様々なプロジェクトにおいて世界各地へ赴き、途上国の助産師を対象に現任教育を行っている経験を基に、写真や動画を見せながら体験談を織り交ぜて高校生に分かりやすく解説していました。

高校生の多くは、看護の専門職というと、地域の病院や診療所での勤務を想像すると思いますが、専門職としてキャリアを構築していくことで、国際的に活躍することもできることを今回の講義で知ってもらえたのではないでしょうか。

将来のキャリア像をつかむ

■ 看護師、保健師、助産師の仕事紹介

それぞれ看護職として働く４名の卒業生に登壇いただき、現在の職場での仕事内容や、保健師、助産師を目指すきっかけとなったエピソードや苦労していること、やりがい、これからの目標などについて語っていただきました。

○ 看護学部二期生
（兵庫医科大学病院 勤務）
萱野 由賀さん（看護師）
○ 看護学部二期生
（北野病院 勤務）
牧内 美希さん（助産師）
○ 看護学部三期生
（兵庫県立こども病院 勤務）
野間 洸佑さん（看護師）
○ 看護学部三期生
（大阪府大東市保健医療部 地域保健課 勤務）
藤原 汐理さん（保健師）

■ 病院にはどのような部署があるのかを知ろう

兵庫医科大学病院の山田 明美副院長（看護部長）に兵庫医科大学病院での研修の様子や、そこで働く看護師の奮闘ぶりなどをムービーとともにご紹介いただき、これから看護職を目指す高校生に熱いメッセージを送っていただきました。

≪参加した高校生からの感想≫

兵庫医療大学のチーム医療、国際看護への意欲・関心が深まりました。

看護部長のお話はとても興味深く面白かったです。

看護を世界レベルで医療の１つとして捉える考えを学べ、視野が広がったような気がします。未来の看護について私も考えていきたいと思いました。

看護学部 鈴井江三子教授「ソロプチミストルビー賞」受賞

平成２６年４月１７日、看護学部 鈴井江三子教授が、国際ソロプチミストより、「ソロプチミストルビー賞１位：女性を助ける女性のために」を受賞しました。

国際ソロプチミストとは、地域社会と世界中で女性と女児の生活を向上させることを使命とした国連における総合諮問資格を持つ非政府組織で、“ソロプチミストルビー賞”は、「職業や生活を通して、地域社会で女性と女児の生活を向上させている女性」「女性と女児のニーズを見つけ出し、それに焦点を当てることにより、女性と女児の生活を向上させることに貢献した女性」に与えられます。

鈴井教授は、２０１０年２月から４年間、国際協力機構（ＪＩＣＡ）が行うナイジェリア連邦共和国ラゴス州母子健康強化プロジェクトにおいて、１５ＰＨＣ（Primary Health Care Center）に勤務する現任助産師を対象に妊婦健診、分娩管理、及び早期新生児期を含む産褥ケアの研修を実施しました。また、指導者を養成し、教育用のマニュアル作成も行い、現地の母子保健向上に寄与しました。

ソロプチミストルビー賞の受賞は、こうした鈴井教授のこれまでの助産師としての様々な活動や助産師教育、特にアフリカにおける活動が高く評価されたものです。

地震・津波防災訓練を実施

平成２６年７月２５日、学生・教職員が参加する地震・津波防災訓練を実施しました。近い将来に東海・東南海地震の発生が予想される中、兵庫県瀬戸内海沿岸部のポートアイランドに位置する本学キャンパスでは、地震による直接的な被害のみならず、この地震によって引き起こされる津波による災害も危惧されることから、一昨年より訓練を行っています。

当日は、海溝型地震が４時限目終了間際に発生したという想定のもと、オクタホールとＭ１０７講義室で授業を受けていた在学生３５９名と教職員２３名が避難訓練に参加しました。校内放送で大地震発生がアナウンスされると、大学は直ちに災害対策本部を設置し、学生は教職員の避難誘導のもと、速やかに一次避難場所であるＧ棟南グラウンドへ避難しました。その後、津波警報が発令されたことを受け、今度はＭ棟４階の二次避難場所へ移動する訓練も行いました。

訓練の最後には神戸水上消防署職員から、「将来、患者さんの安全を最優先に考えなければならない医療現場で働くみなさんにとって、今回の訓練を忘れずに活かしてほしい」という講評がありました。今後も本学全体でこうした意識を常に持ちつつ、継続的に訓練を実施していきます。

平成２６年度 リーダーズキャンプを実施

課外活動および学生会活動の主体となる学生会執行部、大学行事実行委員会、公認課外活動団体幹部学生のリーダーを中心に、各活動の活性化やリーダーシップの養成を目的としたリーダーズキャンプを、兵庫県三木市にあるグリーンピア三木において、平成２６年６月１４日、１５日の１泊２日で実施しました。各団体のリーダーである学生たちは、この２日間にグループ討議などのプログラムに取り組み、リーダーとしての役割について学びました。

■グループ討議・発表

メインプログラムであるグループ討議では、部活動団体とサークル・大学行事実行委員会が小グループに分かれ、決められたテーマについて問題点や解決策を話し合いました。

● 部活動団体

討議テーマ：『部活動とは』

先輩・後輩といった縦のコミュニケーションが少ないと、関係が薄くなり、部活動の運営に影響が出ることが問題点として挙げられました。解決策として、「行動を見せるだけで後輩に伝えられないときは言葉でも伝える」「チームという意識を持たせる」など、先輩としての意識を持って行動するという意見が挙がっていました。

● サークル・大学行事実行委員会

討議テーマ：『サークル活動や学校行事を盛り上げるには』

サークルや学校行事は、活動や行事の内容があまり知られていないことが問題点として挙げられ、解決策として「ホームページや掲示板を活用してサークル活動の紹介や学校行事の宣伝を行うことで、サークルや行事の認知度を高める」など、サークル活動や学校行事の参加者を増やして盛り上げたいとの意見が挙がっていました。

今回のリーダーズキャンプでは、学生会執行部がグループ討議のテーマを決定し、司会やファシリテーターを行うなど、積極的に運営に携わっていました。参加した学生からは「今後の活動に役立つ内容だった。課外活動や行事をよりよいものにするため話し合いは必要だと思った」などの意見を聞くことができました。

今後も引き続き学生の人材養成の一環として取り組んでいきます。

平成２６年度 入学生・在学生特別奨学生証授与式

平成２６年７月２３日、平成２６年度入学生・在学生特別奨学金※の奨学生６４名（全学部全学年）に対する奨学生証の授与式を、Ｍ１１３講義室において行いました。

冒頭に、馬場学長より「奨学生として自覚をもって、兵庫医療大学学生の模範となるような学生生活を送ってください」との言葉が奨学生に贈られました。

その後、各学部の奨学生は、それぞれ西山薬学部長、竹田看護学部長、藤岡リハビリテーション学部長から奨学生証と記念品のクリスタル文鎮が授与されました。

奨学生には、大学の発展のため、勉学とともに各種大学行事においても活躍されることを期待します。

※この奨学金は、入試成績上位者に対して初年度学費を全額免除するもの（次年度以降も成績上位を維持すれば継続して全額免除）と、２年次以降の在学生に対して、各学部各学年の成績上位者を在学生奨学生として認定し、その年度の学費を半額免除するものがあります。

周産期センター長就任挨拶〈8月1日就任〉

小児科学
竹島 泰弘

母体から新生児が生まれる出産・出生および、その前後の時期である周産期は、産婦人科・小児科が連携して、総合的に母児の管理を行う重要な時期です。様々な合併症を有した母体の管理、1,000ｇに満たない体重で生まれた超低出生体重児や重症仮死、呼吸障害を有した新生児の管理を行う周産期センターは、２４時間体制で診療に取り組んでいます。

私は４月に兵庫医科大学に赴任したところで、まだ慣れていないところはありますが、センター長としてスタッフと力を合わせ、センターの運営に尽力してまいります。また、総合周産期母子医療センターの指定をうけ、母体・新生児にとって、さらに安心して医療を受けることができるセンターにしていきたいと思います。今後とも、ご指導ご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

第１４回地域医療懇談会を開催

平成２６年６月７日、ノボテル甲子園（西宮）において「第１４回地域医療懇談会」を開催いたしました。

同懇談会は近隣医師会及び地域医療機関との連携を深めるため、平成６年に第１回を開催し、今回で１４回目を迎えました。当日は、医師、看護師、医療ソーシャルワーカー、事務など、過去最多の１６８名（院外１１５名、院内５３名）のご出席をいただき、下記の先生方にご講演いただきました。

○脳卒中治療の最前線
　脳神経外科 診療部長 吉村 紳一
○炎症性腸疾患診療の最前線
・兵庫医科大学の現状・外科
　炎症性腸疾患外科 診療部長 池内 浩基
・兵庫医科大学の現状・内科
　炎症性腸疾患内科 診療部長 中村 志郎

懇談会終了後の懇親会にも多数のご出席をいただきました。和やかな雰囲気の中、皆様にご歓談いただき、盛会のうちに終了いたしました。

脳卒中ケアユニットを設置

兵庫医科大学病院では、平成２６年４月より中央診療施設に脳卒中センターを設置しています。本センターでは急性期脳卒中患者さんを２４時間３６５日体制で断らずに受け入れ、脳神経外科、神経内科、救命救急センター、リハビリテーション部が連携し、一貫した診療を行っています。平成２６年７月には、初期治療をさらに効率的に行うため、厚生労働大臣の定める施設基準を満たす「脳卒中ケアユニット（SCU）」を９床設置しました。

SCUでは多職種からなる脳卒中専門チームが診断と初期治療を集中的に行い、病状安定後は確実な再発予防を目指します。２００９年に発表された脳卒中診療ガイドラインでは、急性期脳卒中患者さんをSCUで治療することにより、死亡率の減少、在院期間の短縮、自宅退院率の増加、長期的な日常生活能力と生活の質の改善を図ることができると明記されています。兵庫医科大学病院でも脳卒中患者さんに対してより質の高い医療を提供して参ります。

研究 REPORT リポート

こんな人 メモ

岐阜県出身、京都大学医療技術短期大学部理学療法学科（現 京都大学医学部人間健康科学科）を卒業後、大阪府枚方市にある星ヶ丘厚生年金病院（現 星ヶ丘医療センター）で理学療法士として勤務を始める。その後、大阪府立看護大学（現 大阪府立大学）の教員となり、スポーツ障がいについて学びながら、全日本高校野球のチーム付き理学療法士として国際大会へ帯同。さらに在職中にアメリカへ留学し、臓器移植後のリハビリについて学ぶ。平成１３年より母校の京都大学に准教授として戻り、１０年間、肺移植後の患者さんを中心とした呼吸リハビリの臨床と研究を手がけ、平成２３年から兵庫医療大学の教員になる。

中高生の頃はアコースティックギター、就職後はスキーに熱中していたが、年々忙しくなり、最近は時々ジョギングをする程度に。学会や講演会などで休日も多忙を極めるが、色々な先生と酒を酌み交わしながら話す時間が一番のリフレッシュで、先生方が忙しくされているのを見ると「もっと頑張らなくては！」と刺激を受けるという。

理学療法士は「命を左右する仕事」

リハビリテーション学部
理学療法学科 教授　玉木 彰

“見えない障がい”について知ることの大切さ

病院に就職し、理学療法士として４年目を迎えた頃、いつものようにリハビリ室で治療をしていたら、すぐそばでリハビリ中だった他の先生が担当する患者さんが急に胸を押さえて倒れこみ、そのまま息を引き取った。突然の出来事で、ただ見守るしかできなかった自分に対し、１つの疑問が生まれた。

「運動をさせたり、体に負荷をかけたりするリハビリって、実はとても危険な行為なんじゃないだろうか…？そうだとしたら、理学療法士はもっと命や体に関する知識を身につけなくては…」

それまで学んできたリハビリの知識だけでは、何かが足りないように感じた――。

現在、兵庫医療大学で理学療法学を担当する玉木 彰教授。幼い頃はテレビ番組の影響を受けやすい少年で、ドラマを見て剣道を始めたり、「３年Ｂ組金八先生」を見て教師に憧れたり、理学療法士の仕事に興味を持ったのも、脊髄を損傷した女性アスリートがリハビリで復活するドラマを見たことがきっかけだった。

「テレビの影響もあり、リハビリといえば『けがをした人の回復を手助けするもの』というイメージが強くて。それだけに、リハビリ中の患者さんが目の前で亡くなった出来事は、当時２０代だった僕にとって衝撃でした」

他界したのは心臓に疾患を抱えている患者さんだったが、外見からではまったくわからなかった。病室ほどの医療機器がないリハビリ室で、患者さんの命を守れるのは理学療法士だけ。それなら、手や足などの“見える障がい”だけでなく、体の中の“見えない障がい”についても理解しておかねばならない――。その瞬間、自分が追究していくべきテーマが見えた気がした。

在宅の患者さんが笑顔で暮らせるようになるために

当時勤務していた病院が全国に先駆けて“呼吸理学療法”に取り組んでいたこともあり、それ以降、急性・慢性を問わず未熟児からお年寄りまでの呼吸不全患者さんに対するリハビリなどを手がけてきた玉木教授。肺や心臓などの内部障がいについて知り、人間のベースとなる生理学を学んだことで、「それまでより患者さんの反応がより深く理解できるようになった」と振り返る。

「呼吸に障がいがある患者さんを、少しでも楽にしてあげたい」。そんな思いのもと、長年取り組んでいるのは、運動と呼吸のリズムに関する研究だ。しんどいから動かないと、身体機能が低下してさらにしんどくなってしまう。そうした悪循環を防ぐために、「どのように呼吸をすれば楽に体を動かせるか」や、呼吸や姿勢維持に必要となる腹横筋（ふくおうきん）を鍛える方法などに関する研究も行っている。

「今後、日本では在宅医療の重要性が高まってくると思います。患者さんが再入院などすることなく、自宅にいても安心して健康な生活を送ることができるように、“身体活動量”を高めるツールなどを考案していきたいですね」

普段からどの程度体を動かしているか。最近、その活動量が生命維持に大きく影響することが世界的に注目されている。活動量が低下すれば抵抗力が弱まり、感染症にも罹りやすくなるため、まさに理学療法士がリハビリによってどれだけ活動量を増やせるかが、患者さんの命を左右すると言っても過言ではない。

「色々な職種と連携して、“チーム”で在宅医療の仕組みを作りたい」と夢を語る玉木教授。従来の理学療法士の枠を超え、あらゆる角度から患者さんを支えるための研究に、終わりはない。

患者さんに笑顔をプレゼントする「サマーコンサート」を開催

～白衣姿の医師バンドも見事な演奏を披露～

平成２６年７月１９日、１号館１階ロビーにて「サマーコンサート」が開催されました。この催しは、「患者さんにひと時でも楽しい時間を過ごしていただきたい」という思いのもと、患者サービス向上委員会が主催となって夏やクリスマスの時期などに定期的に開催しているものです。

当日は、コンサートを楽しみに待っていた多くの患者さんが開演前からロビーに集まり、たくさん用意していた座席もあっという間に満席状態に。関西を中心に活動中の演奏家グループ“Amadeus”（アマデウス）の皆さんによる演奏が始まると、患者さんは皆、楽しそうな表情を浮かべながらその美しい歌声や音色に聴き入っていました。

また、コンサートの中盤には、耳鼻咽喉科・頭頸部外科の医師３名によるバンド“OTO-RHINO-LARYNGOLS”（オト＝リーノ＝ラリンゴールズ）＊も白衣姿で登場。日ごろの練習成果を発揮した見事な演奏でコンサートを盛り上げるなど、患者さんや医師、病院スタッフらが一体となり、爽やかな夏のひと時を過ごしました。

＊ 英語の耳鼻咽喉科学（otorhinolaryngology）をもじって名付けたバンド。メンバーは、都築 健三先生、赤澤 和之先生、岡 直人先生の３名。

涼しげな特設ステージは、すべて患者サービス向上委員会の手作り

会場となったロビーには、病室からもたくさんの患者さんが来場

白衣姿で奏でる美しいメロディに大きな拍手と歓声が送られた

看護学生向け 病院就職説明会を開催

平成２６年７月１９日、兵庫医科大学病院にて平成２７年度卒業予定の看護学生を対象に、今年度３回目となる病院就職説明会を開催しました。１回目から合計すると９０名以上の参加があり、急性医療総合センターを含む病院見学や、先輩ナースとのディスカッションを行いました。

この説明会で学生を温かく迎えたのは、今年から活動をスタートさせた「おもてなしナース」たち。様々な部署から選出された２～３年目中心の若手ナースたちが、兵庫医科大学病院看護部のモットーである「ＳＷＥＥＴ」なおもてなしを掲げて、看護学生の獲得に積極的に取り組んでいます。

参加者とおもてなしナースは、コーヒーとケーキを食べながらざっくばらんに会話し、「部署での人間関係はどんな感じですか？」「夜勤はどのくらいあるのですか？」など、資料を見るだけではわからない気になる質問が次々と寄せられ、時間が足りない程でした。

説明会の中では、当院が力を入れている新人教育についての説明も行われ、参加者からは「新人のサポート体制に魅力を感じた」という声が多く寄せられました。

この説明会を機に、応募が増えることを期待しています。

兵庫県病院協会による永年勤続病院職員表彰

平成２６年６月２８日に兵庫県医師会館にて兵庫県病院協会総会が開催され、永年勤続病院職員受賞式が行われました。永年勤続病院職員表彰は、２０年、３０年の長きに渡り病院職員として勤続いただいた方に贈られる賞で、本学からは３０年勤続６名、２０年勤続１１名の計１７名が受賞し、賞状が授与されました。受賞者は下記の通りです。

永年勤続病院職員（30年）

所属部署	氏名
放射線技術部	琴浦 規子
薬剤部	柳井 美奈
臨床検査技術部	橋本 眞理子
	藤井 誠治
看護部	尾上 由美子
	藤井 和子

永年勤続病院職員（20年）

所属部署	氏名
臨床栄養部	安井 富美子
看護部	髙木 仁美
	景山 利恵
	大倉 麻紀
	陣内 真紀
	竹本 潤子

所属部署	氏名
看護部	宮崎 智晴
	西田 淳子
	安藤 由賀
	岩倉 己穂
	山内 恵美

第６回 私立医科大学病院 感染対策協議会総会を開催

平成２６年７月２６日、兵庫医科大学 平成記念会館を会場として、第６回 私立医科大学病院 感染対策協議会総会が開催されました。私立医科大学病院感染対策協議会は、大学病院における病院感染対策を強化することで良質かつ安全な医療を提供し、社会に貢献することを目的として設置されたもので、この度の総会には２９大学８０病院より約３４０名が参加し、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師の専門職部会および、総会が開かれました。

総会では、「感染対策のBest practice：耐性菌の監視と介入＆抗菌薬モニタリング」をテーマにパネルディスカッションが行われ、感染制御部の竹末 芳生主任教授の司会の下、活発な意見交換が行われました。

兵庫医大フロンティア医療セミナーを開催

第23回（平成26年7月10日開催）

■肝疾患における最新治療

コーディネータ
肝・胆・膵内科 臨床教授 飯島 尋子

B型肝炎の治療
肝・胆・膵内科 講師 齋藤 正紀

C型肝炎の治療
肝・胆・膵内科 講師 榎本 平之

食道胃静脈瘤の治療
肝・胆・膵内科 講師 岩田 恵典

肝がんの治療
肝・胆・膵内科 講師 田中 弘教